ベンチャー・SOHO

地方の独創企業

■福岡市

コンピュータコンビニエンス　心身の状態解析ソフト

医療用、「カオス理論」活用

コンピュータコンビニエンス（福岡市、野藤泰昇社長）は「カオス理論」という数学理論を使い、心身の状態を解析するソフトの開発に力を入れる。大手や地場企業と組み、投薬効果や心電図を簡単に判定できる技術に応用するなど医療機器市場を開拓。自動車の運転に利用するプロジェクトも動き始めた。

◎◎◎

カオス理論は一見複雑な現象の中から、いくつかの規則性を見つけて判別・予測するソフトや、医療診断に役立つソフトの受託開発に乗り出した。カオス解析ソフトの売り上げは二〇〇二年九月期で一億円と、まだ売上高全体の二割にすぎないが、「カオスを応用できる分野は多い」と野藤社長は語る。競合相手がほとんどいないことも追い風になっている。

医療の分野では、人体の動脈の伸縮の度合いを示す脈波を解析対象に選び、カオス理論と組み合わせたことで、市場が広がりつつある。今夏、大塚製薬グループと共同で、指先から投薬効果を判定するシステムを開発した。指先に取り付けたセンサーから脈波を読み取ってカオス解析し、コンピューター画面上に表示する脈波のゆらぎや数値などを見ながら判定する仕組みだ。

例えば抗うつ剤の投薬効果は十日前後で判定が可能。判定時間を従来の六分の一に短縮できる。二〇〇三年度中の実用化を目指して医療機器メーカーとの作業が大詰めを迎えている。

福岡市の医療機器メーカーと共同で手のひらサイズの心電図測定器も開発した。本体の電極を手のひらに当てて脈波を読み取り、心電図に乱れがないかを瞬時に判定する。小型化したカオス解析ソフトを機器に埋め込んだ。年内に国内外のドラッグストアで販売する計画で、年三億円の売り上げを目指す。

◎◎◎

さらに「医療に続く有望な市場」（野藤社長）として期待を寄せているのが、自動車分野への応用。第一弾が、このほど日産自動車と共同開発に乗り出した、運転手の眠気や疲労度を測定するシステムだ。

ハンドルに導電性の高いセンサーなどを付け、両手から脈波を読み取る。車内に設置したカオス解析ソフトが、運転手の眠気や疲労度などを測定。ある一定の度合いを超えた場合には運転手に光、音、振動などを使って警告し、事故の防止につなげる。

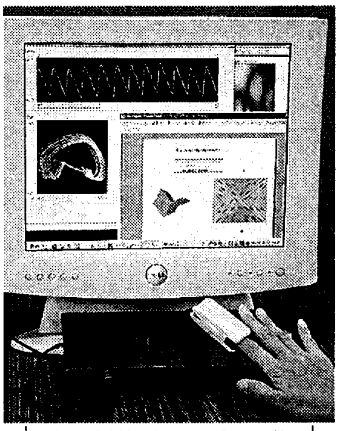
実用化のめどはまだ立っていないが、「自分がやってきたことに自信を深められる材料にはなる」と野藤社長は顔をほころばせる。同社の目標は五年後に二十五億円の売上高を達成することだ。

「ICチップのように、カオス解析ソフトが気付かぬ所に入り込んでいる存在になれれば」。野藤社長の夢が現実になる日はそう遠くないかもしれない。

（西部支社　山田宏逸）

野藤泰昇社長

《会社概要》
▽本社　福岡市博多区博多駅前3－6－1
▽社長　野藤　泰昇氏（のとう・やすのり）
▽電話　092・474・5106
▽売上高　4億9500万円（2002年9月期）
▽従業員数　53人
▽事業内容　ソフト開発、システム開発、技術者派遣



大塚製薬グループとは指先で投薬効果を判定するシステムを開発した